



## 南三陸通信 Vol.5

東日本大震災復興支援として、宮城県南三陸町へ現在派遣している白武和磨主査からのお便り第5号です。

南三陸町で津波による被害が大きかった低地の土地区画整理事業区域内に土地を持つ人については、土地の区画を整理して、場合によっては配置を変える「換地<sup>かんち</sup>」を行います。

現在、土地所有者等のみなさんに事業の手法などを説明する、個別面談会を9月末から実施しています。

その際に、町が考えている土地利用のイメージを地権者ひとりひとりに説明し、土地区画整理事業後の商業地区などについては、商売などの具体的な事業をご検討いただいております。

地権者のみなさんのご意向は、換地設計に反映し、場合によっては土地利用ゾーニングの変更や、今後の事業認可変更にも反映していく計画で進めています。

## 株JA食糧さが・多久市進出協定締結式

米の卸販売を行う『株式会社JA食糧さが』と多久市の進出協定締結式を9月20日、多久シティホテル松屋にて行いました。



▲締結後握手を交わす横尾市長（左）と庄山社長（右）

今回の進出により、現在唐津市内にある工場および本社を多久北部工業団地（敷地面積…約8300平方メートル）へ移転し、延べ床面積5777平方メートルの新工場を建設するもので、12月に着工し、平成26年4月操業開始を予定されています。

締結式では、横尾市長が「佐賀県が誇る美味しいお米を取り扱う基幹工場を建設いただくことは、関係農家のみなさんにとっても大変ありがたいことです」とあいさつ。庄山嘉社長は「新工場では、最新鋭の精米設備を導入予定で、米どころ佐賀の生産者のみなさ

んが大事に育てたお米を安心・安全に食べて頂けるよう精進します」と進出への思いを語りました。



▲協定書へのサインの様子

## 市長コラム

## 温故創新

Message for citizen

### 7年計画を始めませんか

市長 横尾俊彦

9月8日に決まった2020年東京オリンピック・パラリンピック。それをチャンスに新しい人生をはじめませんか。今月はそんなお誘いです。というのも、その日以降にお会いした方々から「市長さくん、私もオリンピックに行きたい」という言葉を多く聞くのです。

7年後の東京オリンピックに行くにはどうすればいいでしょう。まずは健康です。元気で楽しく出かけた。ならば健康づくりが大事です。今から食事や軽い運動を日々留意したいですね。

次は旅費。貯金です。例えば月千円貯めれば7年で東京往復も可能です。もちろん宿泊付き。おしゃれてなら、もう少し貯金が必要ののかも。

オリンピックに集まる世界の人と出会うこともありますね。上京しなくても世界から多久へ来る観光客もあるでしょう。そのように世界の人々と出会う時には簡単な挨拶をやってみたいですね。きつと楽しいし、友達になれるかも。などと考えると、そう外国語学習も大事になりますね。

とりあえず英語学習を始めましょうか。「ええっ、にがて〜」と思っちゃダメですよ。ここが肝心。「さてうた中学+高校より長い7年かければ大丈夫」と思うことです。ラジオやテレビの英語講座でいいのです。まずは聴いてみましょう。少しずつ習い、慣れるのです。7年できつとできますよ。

そうして迎える東京五輪はきつと楽しくなるはず、でしょ。思い立てばいろんな夢も叶うはずとも思えます。なりたい始める…そう今でしょ。